

一	年	A	組	
---	---	---	---	--

川
優
衣

福祉はあたたかい。今年の夏、私はボラン	ティアとして初めて社会福祉施設を二か所、	訪れた。誘われる前まではボランティアに参	加しようとは思っていなかった。興味があつ	たものの、それに参加するならば、休日とい	う貴重なご褒美の時間を失うことになる。毎	週の楽しみである休日は家で過ごしたいとい	う思いから、ボランティアに参加する機会を	逃していた。しかし、友達からの誘いと部活	動の郊外活動に参加するのを決めたことによ	って、やっとチャンスを掴むことができた。	ボランティアとして初めて訪れたのはデイ	サービスの施設。生活をサポートするのでは	なく、利用者様との会話やミニゲームがメイ	ンの活動だった。私は自分から話しかけるの	が苦手なうえ初めてのボランティアで不安と	緊張しかなかった。しかし、利用者が自身
---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------

の小学生の頃のお話を明るくしてください、緊張をほぐしてくれた。利用者様は私の知らない昔の生活を経験しており、このことを聴き、昔の暮らしを身近に感じるといいう、とても貴重で充実した時間を過ごせた。この日は、自発的に動いて社会へ奉仕することの楽しさだけでなく、ボランティアという活動のあたたかさを感じた。

次に訪れたのは児童発達支援センターである。私が手伝ったクラスの子たちは自分がやりたいことを言葉にして伝えることが難しく、その分喜怒哀楽が激しい。そのため、私は何をしてもあげればいいのか、どう接すればいいのか分からなかった。けれども、クラスの大抵の子たちが私に寄ってきて、膝に乗ってきてたり、抱っこして欲しいというようなスキンシップを求めてきた。これらの行動から園に通う子たちにとって、この園は心から信頼できる大切な場所であることが伝わってきた。これと同時に優しさや思いやりの気持ちを持ち

、

っ	て	い	る	子	た	ち	だ	と	気	づ	か	さ	れ	た	。	時	に	は	、
自	分	の	思	い	通	り	に	い	か	な	い	と	モ	ノ	や	先	生	に	八
つ	当	た	り	し	て	し	ま	う	。	感	情	が	抑	え	き	れ	ず	、	行
動	に	出	て	し	ま	う	。	こ	の	時	、	保	育	士	の	方	は	す	ぐ
に	注	意	す	る	の	で	は	な	く	、	暴	れ	て	し	ま	っ	て	い	る
子	を	落	ち	着	か	せ	、	優	し	い	口	調	で	胸	の	前	で	腕	を
ク	ロ	ス	し	て	注	意	す	る	な	ど	、	そ	の	子	に	伝	わ	り	や
す	い	よ	う	に	工	夫	し	て	い	た	の	だ	。	保	育	園	と	い	う
小	さ	な	社	会	の	中	で	一	人	ひ	と	り	の	主	体	性	や	自	発
性	を	大	切	に	し	、	力	を	伸	ば	す	。	そ	し	て	個	別	の	状
態	に	あ	っ	た	適	切	な	教	え	方	で	、	生	活	や	運	動	、	感
覚	、	コ	ミ	ュ	ニ	ケ	ー	シ	ヨ	ン	の	仕	方	な	ど	を	少	し	ず
っ	、	沢	山	の	こ	と	を	身	に	つ	け	る	。	こ	の	よ	う	な	施
設	は	発	達	支	援	が	必	要	な	子	や	そ	の	子	の	家	族	に	と
っ	て	も	掛	け	替	え	の	な	い	あ	た	た	か	い	場	所	で	あ	る
と	感	じ	た	。															
普	通	の	人	間	は	い	な	い	。	一	人	ひ	と	り	「	普	通	」	
の	基	準	が	異	な	る	た	め	、	一	人	ひ	と	り	特	別	な	存	在
だ	。	そ	の	「	特	別	」	を	尊	重	し	、	自	然	と	手	を	差	し
伸	べ	て	い	る	、	福	祉	は	互	い	を	あ	た	た	か	く	す	る	。